

4月

新着図書

楽園の楽園

著者名：伊坂幸太郎

出版社：中央公論新社

伊坂幸太郎デビュー25周年記念書き下ろし作品。長さは短編、物語は壮大、読みごたえは大長編。人はどんなものにも物語(ストーリー)があると思ひ込む。きっとあなたもそのひとり。大規模停電、強毒性ウィルスの蔓延、飛行機墜落事故などが立て続けに発生し、世界は急速に混乱に陥った。これらすべての原因は謎の人工知能『天軸』の暴走と考えられた。五十九彦(ごじゅくひこ)、三瑚嬢(さんごじょう)、蝶八隼(ちょうはっかい)の選ばれし3人は、人工知能の開発者が残したという巨大な樹の絵画『楽園』を手掛かりに、暴走する『天軸』の所在を探る。旅路の果てには、誰も想像できない結末が待ち受ける。書き下ろしの短編小説を、気鋭のアーティスト、井出静佳の装画・挿絵とともに味わう「伊坂幸太郎史上最も美しい1冊」。

目には目を

著者名：新川 帆立

出版社：KADOKAWA

【罪を犯した「本当は良い子」の少年たち。奪われた命が、彼らの真実を浮かび上がらせる。】
重大な罪を犯して少年院で出会った六人。彼らは更生して社会に戻り、二度と会うことはないはずだった。だが、少年Bが密告をしたことで、娘を殺された遺族が少年Aの居場所を見つけ、殺害に至る——。人懐っこくて少年院での日々を「楽しかった」と語る元少年、幼馴染に「根は優しい」と言われる大男、高IQゆえに生きづらいと語るシステムエンジニア、猟奇殺人犯として日常をアップする動画配信者、高級車を乗り回す元オオカミ少年、少年院で一度も言葉を発しなかった青年。かつての少年六人のうち、誰が被害者で、誰が密告者なのか？

猫の刻参り

三島屋変調百物語拾之続

著者名：宮部 みゆき

出版社：新潮社

化け猫、河童、そして山姥——狂気に塗れた苦界を生き抜く女と、化生の子どもが織りなす怪奇譚。江戸は神田三島町にある三島屋の次男坊富次郎は、変わり百物語の二代目聞き手。飼い主の恨みを晴らす化け猫、命懸けで悪党壊滅に挑む河童、懺悔を泣き叫ぶ山姥が登場する客人の身の上話を聞いている。一方、兄・伊一郎の秘密の恋人が出奔。伊一郎の縁談を巡って、三島屋は大騒動に巻き込まれてしまう……

月収

著者名：原田ひ香

出版社：中央公論新社

それぞれの月収に見合う生活を送る6人。欲しいもの、不要なもの、そして、お金では買えないもの——。

【月収4万円の66歳】……年金暮らしで貯金を切り崩す毎日に、ある収入源が!?

【月収8万円の31歳】……専業作家を目指し、不動産投資を始める。

【月10万円投資の29歳】……普通の会社員が、親の介護を見越して新NISAを利用。

【月収100万円の26歳】……パパ活専業で、20代のうち1億円を稼ぐのが夢!

【月収300万円の52歳】……夫の遺産と株式投資で、働かずとも暮らせてはいるが……。

【月収17万円の22歳】……元介護士。生前整理の会社を立ち上げる——?

皇后は闘うことにした

著者名：林 真理子

出版社：文藝春秋

好きでもない女と結婚するのは絶対に嫌だ「自分たちは宮家に生まれて、あれこれ苦労した」「あの女王さまでは、子どもをお産みになることは出来ないでしょう」——。さまざまな立場に葛藤する皇族を描いた5つの短編には、読む者を圧倒する”心の内”が綴られる。これまで描かれたことのない、衝撃の短編集。

妹の友人に恋焦がれ、ようやく結婚目前まで漕ぎつけた久邇宮朝融王は、彼女にまつわる“ある噂”を耳にし、強引に婚約を破談にした。その後、別の宮家の子女と結婚したものの……（「論言汗の如し」）

徳川家の若き末亡人・実枝子は、喧嘩の絶えなかった夫・慶久が妾との間に遺した子に愛情を注げず苦悶していた。思い起こせば、あの頃は本当に幸せだったのに。（「徳川慶喜家の嫁」）……

逃亡者は北へ向かう

著者名：柚月 裕子

出版社：新潮社

震災さえなければ、この人生は違ったのだろうか？大震災直後に殺人を犯し、死刑を覚悟しながらもある人物を探すため姿を消した青年。自らの家族も被災した一人の刑事が、執念の捜査で容疑者に迫る。壊れた道、選べなかった人生——混沌とした被災地で繰り広げられる逃亡劇！『孤狼の血』『盤上の向日葵』の著者が地元・東北を舞台に描く震災クライムサスペンス。